

総合資源エネルギー調査会  
省エネルギー・新エネルギー分科会 省エネルギー小委員会  
ガス・石油機器判断基準ワーキンググループ（第4回）  
議事要旨

1. 日時：2024年4月18日（木）16：00～17：20

2. 場所：経済産業省別館11階 1111会議室

3. 出席者

委員：齋藤座長、赤松委員、大國委員、花村委員、林委員

オブザーバー：

一般社団法人日本ガス石油機器工業会 荒井オブザーバー、清水オブザーバー

一般社団法人日本ガス協会 菅沼オブザーバー

事務局：経済産業省 省エネルギー課 木村課長、井澤課長補佐、須田係長、宮原係員

4. 議事：

- ① ガス温水機器の現状について
- ② ガス温水機器の対象範囲、区分について（案）
- ③ ガス温水機器のエネルギー消費効率及び測定方法について（案）
- ④ ガス温水機器の次期目標基準値の策定方針について（案）

5. 議事要旨：

○議事① ガス温水機器の現状について

本ワーキンググループにて、ガス温水機器のトップランナー新基準を検討することについて、了承された。

○議事② ガス温水機器の対象範囲、区分について（案）

○議事③ ガス温水機器のエネルギー消費効率及び測定方法について（案）

○議事④ ガス温水機器の次期目標基準値の策定方針について（案）

ガス温水機器の対象範囲、区分、エネルギー消費効率及び測定方法、次期目標基準値の策定方針について、それぞれ了承された。

委員の主な意見は以下のとおり。

- ドレン排水を雨水と同様に取り扱うことを認めている自治体は前回の委員会

時点から増えており、潜熱回収型機器の設置制約は改善してきているため、潜熱回収型機器の最大限の導入について丁寧に検討いただきたい。

- 潜熱回収型機器の導入に関して、市場がネックであると認識している。買い換え時期を認識できないままエネルギー効率が悪い機器を使用し続け、高額なガス料金を支払っている消費者も多いため、消費者に対する啓発も重要である。
- 次期目標基準値は、将来の最大限の導入ポテンシャルに基づき、意欲的な水準に設定することが必要。
- 給湯器は日常生活に必要不可欠な設備機器であり、過度に高い目標基準値を設定することで機器の供給が滞ることがないように、目標基準値は省エネを進めつつも、現実的な水準に設定することが必要。

以上